

バセドウ病の合併症 その3

3

骨粗鬆症

A)バセドウ病では、骨が弱ることがあります。

バセドウ病では若い人でも、60～70歳の骨になっている場合があることが分かってきました。これは、甲状腺ホルモンの高い時期に尿中にカルシウムが正常の6～7倍失われるためです。カルシウムは骨から溶け出て、尿に出て行くわけです。そのために、骨が弱くなり、骨粗鬆症という病気になります。

骨訴訟症の症状



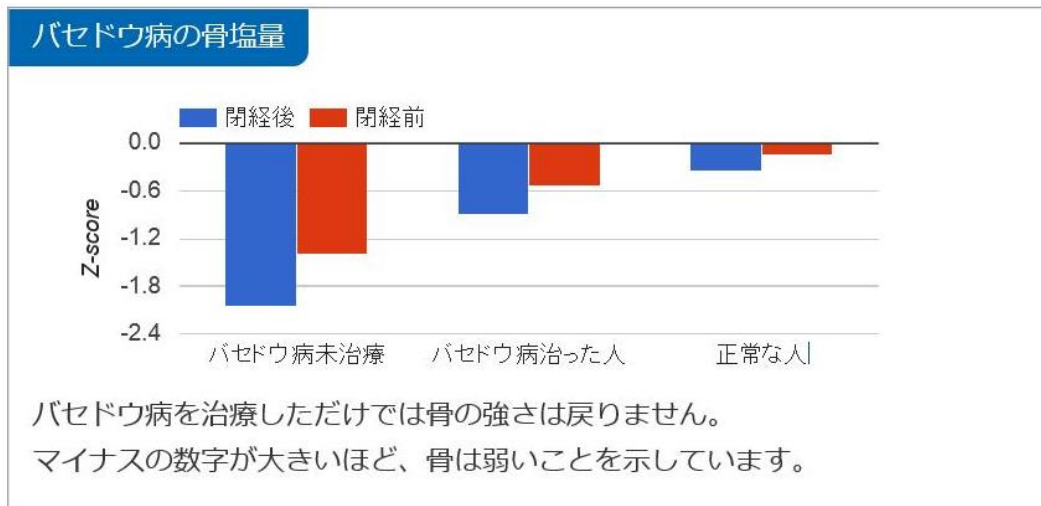
しかし、バセドウ病の治療をただけで
は骨は元の強さには戻らないことが、分

骨粗しょう症による骨折が生じやすい部位



かりました。骨粗鬆症は痛くもかゆくもないので、本人が気付かないために失われたカルシウムを補充せず、元の強さに戻らないと考えられます。

1) バセドウ病の骨塩量



骨塩測定装置で骨の強さを測り、骨が弱っていることを早期に見つけ、カルシウムを沢山摂るとかビタミンD（腸からのカルシウムの吸収を助ける薬）で治療をすれば骨は元の強さに戻ると思われます。

2) ビタミンDの治療効果

